

平成26年9月26日(金)

老球の細道65号 バスケットボール誕生秘話Ⅶ
『文武両道のネイスミス の生涯 〈その3〉』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

色々な大会や会合などでスピーチを頼まれた時に話す内容は決まってきた。それは、今がんばっているバスケットボールを次のステージ(カテゴリー)でさらにレベルアップするための「四つのお願い」である。特にミニ、中学校のコーチ、選手には強調している。

①バスケットボールのファンダメンタルを大切にしてほしい。②バスケットボールを楽しんでほしい。やらされてやるのではなく心底楽しみながらプレーしてほしい。③バスケットボールのみならず色々な運動を経験してコーディネーション能力を磨いてほしい。④バスケットのレベルが上がるほど頭を使うプレーが多くなる。学業、勉強を決しておろそかにしないでがんばること。

この四つの中で特に強調したいのは四番目の学業との両立である。これができずに、上のカテゴリーに進むほどにバスケットボールからリタイアしたり、プレーがさっぱり伸びないで終わってしまうプレーヤー達がいかに多いことか。「私は勉強ができないからバスケットボールをがんばる」などとうそぶく子ども達がいるが本末転倒である。トップアスリートは例外なく頭脳明晰で文武両道である。そうでなければ、高度なプレーを瞬時の判断でスピーディーにできるはずがない。

模範になるのは敬愛するネイスミスである。彼はYMCAトレーニングスクールの先生になり、歴史に燦然と輝くバスケットボールを創案したのがちょうど30歳のときであった。大学、神学校を卒業し、念願のスポーツ指導者になったネイスミスは、授業で学生達に熱心に指導していた。そんな折、学生のケガに対して応急手当をするうちに、「医学を本格的に学んでみたい」という向学心に火がついたという。

1895年の夏休みに、コロラド州デンバー(NBAナゲッツの本拠地)YMCAから体育講習会の講師に招かれた時、近くにあるグロス医科学校(現コロラド大学医学部)に心が動いた。行動の人ネイスミスは思ったら吉日。その年の秋になる前にデンバーYMCAに転勤し、同時にグロス医科学校に入学した。福島工業高校コーチの渡部浩一先生も科学的な根拠の元で指導したいと福島大学の大学院に入学している。さすが超一流。

1898年ネイスミスは医学博士号を取得した。しかし、人生は幸運なことはいつまでも続かないらしい。ネイスミスが担当していたデンバーYMCAの器械体操の授業中に、受講生が頭から落下して死亡する事故が起こった。彼はそのショックから逃れるようにデンバーを去り、カンザス大学に転勤した。カンザス大学では、運動生理学、体操、フェンシングなどを授業で教え、バスケットボールチームのコーチもした。多くの学生達に慕われながらカンザス大学には40年ちかく在籍した(途中第一次世界大戦に医療看護業務で参戦)。その後、最愛の妻が他界したのを期にカンザス大学を退職している。

晩年のネイスミスは不幸が続いたが、彼の生き様は多くの教訓を与えてくれる。バスケットボール創案にかかわる「ハーキュリーチョイス(困難の選択)」への挑戦、あらゆることからヒントをつかむ柔軟な思考力と創造力、そして絶えず勉学を止めない向上心。ネイスミスの生涯を知れば知るほど、バスケットボールだけやっていたらOKなどという考えは創案者に対してはなはだ失礼極まりないことを実感する。